



11.住み続けられるまちづくりを
17.パートナーシップで目標を達成しよう



市立前橋高等学校の取り組み「めぶけ! グローバルな高校生へ」。その一環の特別授業には1年生238名が参加した。

地元の未来を高校生が描く

高校生と遠く離れた南スーダン共和国がつながる——日本人も外国人もみんながともに生きる社会を目指し、高校生がさまざまなチャレンジを行っている。

群馬県前橋市はホストタウン*として、オリンピック・パラリンピック出場予定の南スーダン共和国の陸上競技の選手団5名を、2019年11月から長期で受け入れている。また、市立前橋高等学校では、「めぶけ! グローバルな高校生へ」と題し、少子高齢化に伴う人口減少に加え、卒業後の地元離れを食い止めたいと地元を目を向ける取り組みを始めている。

その一つが、前橋市で生活をする外国人との国際理解交流会。南スーダン選手団をはじめ外国人留学生や技能実習生にも参加してもらい、「日本や日本人に対して驚いたことは?」「母国に帰って帰りたい前橋市のお土産は?」といった高校生ならではの視点で質問し、新たな地元の姿を探っていく。「外国人から日本人へのアドバイスは?」との質問には「言いたいことをもっとはっきりと言ってほしい」という回答があり、高校生たちも深くうなずいていた。外国人から日本と異なる文化を聞き、客観的に日本を知ること、前橋市活性化の芽を探る貴重な機会となった。身近な世界とのつながりに目を向け、外国人も日本人もだれもがともに生きる社会、住み続けられる社会を目指す高校生の挑戦は、SDGs 17のパートナーシップのみならず、あらゆるゴールの基礎になるはずだ。

*東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、日本の地方自治体が大々参加国や地域との交流を深める取り組み。

今月の投稿(文と写真) 佐藤祥平さん

青年海外協力隊2015年2次隊としてバングラデシュとジンバブエにサッカー指導員として派遣される。帰国後、18年2月から群馬JICAデスク国際協力推進員、19年10月から南スーダン応援委員会の委員長も兼任。

あなたの投稿をお待ちしています!

「わたしが見つけたSDGs」に写真と文章をお寄せください。貧困や気候変動、格差ほか、いま世界が直面している課題やその解決に向けた取り組みのエピソードなど、SDGsの17の目標を身近に感じられる作品をお寄せください。

応募要項:写真1点(ご自身が撮影されたもの)、文字原稿400字以内。

*写真内の被写体に関する肖像権およびその他の権利は、投稿者の責任において被写体や権利保持者の承諾を得るなど必要な措置をとったうえでご応募ください。

ご応募・お問い合わせ先 ▶ ML_JICAPR@jica.go.jp (「mundi」編集部宛て)



SDGsとは

持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)は「誰一人取り残さない」をスローガンに、格差や貧困、環境破壊など世界が直面している問題の根本的な解決を目指す17分野の国際目標。

持続可能な開発目標(SDGs)と
JICAの取り組み

